

博物館資料を対象とした記述基準の分析 The Analysis of guidelines for describing information about museum objects

菅野育子*

Ikuko SUGANO

抄 録

In bibliographic world, there are many discussions and standards for describing bibliographic information, while in cultural heritage world, there are few discussions and no standards for describing information about museum objects.

But, ICOM/CIDOC(International Council of Museum/International Committee for Documentation) develops Conceptual Reference Model(CRM) which provides definitions and a formal structure for describing the concepts and relationships used in cultural heritage documentation. And CRM are intended to cover library materials and historical materials.

When users need to know information about museum objects, library materials and historical materials simultaneously, museums, libraries and archives shall prepare interoperability for information about their resources.

This study aims to examine the interoperability by analyze many guidelines for describing information about museum objects with library standard, *MARC21*. Selected five famous guidelines are *Object ID*, *VRA Core Categories*, *CDWA (Categories for the Description for Works of Arts)*, *ICOM/CIDOC Guideline*, and *ICOM/CIDOC/CRM*.

Results are as follows;

- (1) While library standards depend on abstract concepts of works, guidelines for museum depend on concrete physical items.
- (2) To aim to serve information about materials to users, libraries need standards for describing information about materials in detail. But, museums need standards for describing physical entity in detail to aim to keep and identify objects.

* 愛知淑徳大学 文学部図書館情報学科

Department of Library and Information Science, Aichi Shukutoku University
JOURNAL OF LIBRARY AND INFORMATION SCIENCE. Vol. 17, p. 39-47 (2003)

1 はじめに

図書館資料を対象とした記述基準である目録規則は、ISBDを始めその主要なものが、図書館界における独自の標準化活動によって制定され、その開発国である欧米だけでなく多くの国々で採用され、あるいは国内の目録規則の基礎として各国で利用されている。このような図書館資料の記述基準の現状に比べて、博物館資料を対象とした記述基準は欧米を中心として複数開発されてきたが、各基準を開発した機関のみが利用するに留まっているのが現状である。このような状況下で、ICOM/CICOC (国際博物館会議の国際ドキュメンテーション委員会)は、長年検討を重ねてきた博物館資料の記述基準を基礎とした*Conceptual Reference Model (CRM)* [1] をISO (国際標準化機構)へ規格案として提出した。このことは、これまで開発されてきた博物館の記述基準がいずれも汎用性に乏しく、複数の博物館間での資料に関する情報の共有化が進められなかった事に因ると言えよう。

このように博物館の記述基準における標準化が図書館のように容易に実現しないのは、ひとつには博物館資料が多様であることと、もうひとつは、博物館が利用者への資料提供よりも資料保存に重点を置いてきたことがその理由として考えられる。しかし、博物館資料の識別には各資料の特性やそれを保存する博物館の目的や機能に関する情報が必要とされており、その記述における特徴を見逃すことはできない。

博物館界においても資料のデジタル化が進み、取り扱いを異にする多種多様な資料も電子的な情報資源として同様にインターネット上に配信され、より多くの人々に資料を知ってもらおうとする動きが見られるようになってきた。そのような動きは、博物館界内部だけでなく他の類縁機関との情報源に関する情報の共有化を検討する機会ともなっている。博物館資料、図書館資料、文書館資料の横断的な利用の基礎となるような、メタデータ間のクロスウォーク [2] についての議論がDCMI [3] や米国議会図書館はもとより多くの現場ではじめられている。

本研究は、図書館、博物館、文書館、教育機関、出版界、著作権管理機関などの、情報源を提供、保存、利用、およびそこから発生する著作権管理に関連を持つ機関において、情報源に関する情報の相互運用の可能性を検討するための布石である。すでに図書館と著作権管理機関での資料識別の違いに関する研究としては、書誌的世界で提案された概念モデルである『書誌的記録のための機能要件』(*Functional Requirements for Bibliographic Records*, このうちIFLA/FRBRと略す) [4] と、著作権管理の世界で提案されたコードであるISWC (*International Standard Work Code*) [5], ISTC (*International Standard Textual Work Code*) [6] を採り上げ、両者のwork概念の機能を比較した [7]。

本研究では、博物館を対象にその資料識別の特徴とその背景を明らかにすることを目的とする。そのために、博物館資料を対象とした記述基準を分析し、さらに図書館資料の記述基準と比較しながら、識別方法の特徴を明らかにする。

2 博物館資料を対象とした記述基準

博物館資料識別のための書誌記述は、博物館ドキュメンテーション (museum documentation) という言葉で知られているように、博物館において資料の保存・管理のために資料に関する情報を作成することから始められた。しかし、各博物館が独自の方針に基づいて多種多様な資料 (標本も含む) を収集し保存しているために、各機関で作成される情報は、同じ資料タイプに対しても、記述項目や記述内容が異なっている。そのため、本研究で対象とした記述基準は、欧米において主要な基準として知られており、各種の博物館で利用できる汎用性を意識して作成された5つとした。次に5つの基準について概要を述べる。

美術品の盗難事件の対策や博物館間での美術品の貸借などを簡便にするために、複数の機関で作成可能な書誌記述のための最低基準 (minimum standard) が作成されている。それ

には、盗難品の識別のために開発された *Object ID* [8] や原作とその画像資料の管理を目的に開発された *VRA Core Categories* [9], そして国際的な博物館資料に関する情報交換を目的とする *ICOM/CIDOC Guideline* [10] と先に述べた *ICOM/CIDOC/CRM* [1] がある。

一方、美術史研究において、絵画の意味内容を解明するためや構図の歴史の変遷を分析することから特定作品による他の作品への影響を見るために、複数の作品を比較検討する目的で絵画資料に関する情報が必要とされていた。しかし、資料に関する記述項目の統一以上に用語の統一が必要とされていたため、Getty財団によってAATシソーラスが開発された [11]。美術研究の立場から開発された記述基準の事例として、このAATシソーラスを記述用語として採用している *CDWA (Categories of Description for Work of Arts)* [12] がある。

以上5つの記述基準を対象に博物館資料の識別方法の検討を行なう。博物館資料識別の特徴を分析するために、図書館資料の記述フォーマットである *MARC21* [13] を比較の対象として利用した。これは博物館の記述基準が、資料に関する情報を記述するためのデータ構造を規定する記述フォーマット (*MARC21*) に該当するものであり、データ内容をどのように記述するかについての詳細な規則 (*AACR*) にあたるものではなかったためである。

3 博物館資料記述基準の特徴

3. 1 盗難品を対象とした記述項目

Object ID はGetty財団が開発し1997年に完成した、美術品や古美術品を対象とした記述基準である。特に盗難品の識別を目的としており、博物館だけでなく国際警察や美術商も利用可能なように、記述項目は最小限に抑えられているのが特徴である。その最小限の項目として、資料タイプ、材質と技法、計測、碑文や銘刻、タイトル、構図、製作年の他に、物理的な特徴(損傷部分など)を示す *Distinguishing Features* という項目や作品の製造者 (*Maker*) が含まれ

ており、美術品の作者、作品の主題などは含まれていない。また、記述項目を記載するための *Object ID* チェックリストの最初には、「写真を撮る」というチェック項目があり、さらに銘刻や損傷部分は大写するように指示されていることから実体の物理的特徴が盗難品の識別に不可欠であることがわかる。

3. 2 美術作品と画像資料を対象とした記述項目

VRA Core Categories は、Visual Resources Association (VRA) が開発した視覚情報源 (Visual Resources), すなわち美術作品 (*work*) とその画像資料 (*images*) を対象とした記述レコード作成のためのデータ構造である。Core Categoriesとは、各カテゴリでの記述内容や用語よりも記述構造を定義する最小限の項目を示していることを意味しており、Dublin Coreのメタデータ作成の考え方を参考にしている。カテゴリは、作品自体に関する記述用に19項目と、作品の画像(作品を別の媒体によって画像化したもの)に関する記述用に9項目が個別に設定されている。*VRA Core Categories* での *work* の定義について見てみると、この場合には *work* は物理的実体 (Physical entity) であり、現在存在するものも、過去に存在していたものも、将来存在しうるものも含むとしている。さらに *work* を視覚的に表現したものを *image* と定義している。*image* の典型例は、美術作品のスライド、写真、電子ファイルであり、これらは博物館資料の目録作成機関が資料識別のために所蔵しているものである。この *VRA Core Categories* の第3版では、RECORD TYPE というカテゴリを追加し、*work* に関する記述と *image* に関する記述とを識別可能にし、かつ両者の記述間のリンク付けを可能にしている。このように、博物館資料の識別は *work* という物理的な実体を中心であり、資料の物理的特徴を視覚的に表現した画像資料はすべて派生物 (*reproduction*) として扱うことができる。また、この派生物は資料の現物を識別するために

利用されることを意図して作成されたものである。美術作品を意味するworkという語は、美術作品が物理的な実体として存在している（存在していた）ことが前提であり、図書館資料における抽象的な概念であるworkとは全く異なっていた [7]。

3. 3 文化財を対象とした記述項目

3. 3. 1 CIDOC Guideline

ICOM/CIDOC Guideline [10] は、ICOM (International Council of Museums: 国際博物館会議) の中にあるCIDOC (International Committee of Documentation: 国際ドキュメンテーション委員会) が開発した記述項目に関する指針である。この指針の基礎は1978年に提案され、*CDWA* [12] を含む既存の記述基準を参考に改良され1995年に報告された。この指針の目的は、(1)文化財に関する詳細なデータを記録する際に用いられること、(2)その記述の際の決まりや慣例を示すこと、(3)記述のための用語について言及すること、である。ただし、すべての博物館への強制力は持たず、今後開発される国際的な記述基準の基礎として、また国内用の記述基準の基礎としての役割が強調されている。また、この指針は次のような目的を果たすために役立つものであるとしている。つまり、(1)各博物館がどのような資料をどこに所蔵しているかを示す、(2)その資料が現在どのような状態（たとえば、展示中、貸し出し中、修復中など）であるかを示す、また（盗難にあった場合に）その資料がどのような特徴もっているかを示す、(3)博物館資料を直接見たい人や、資料に関する情報を求める人に対して役立つものを示す、といった博物館ドキュメンテーションの目的を支援するものであるとしている。

このような*ICOM/CIDOC Guideline*の目的と役割は、その博物館資料の識別方法に影響を与えている。それは、*ICOM/CIDOC Guideline*のデータ構造から見ることができる。この指針は22の情報グループから成り、各グループの中

に複数の情報カテゴリと呼ばれる記述項目が含まれている。情報グループには、資料取得、資料の状態、資料の所在、資料の材質・技法、など博物館が資料に関連する活動の場ごとに項目がまとめられているが、各館の必要に応じてすべてのグループを採用することはないとしている。たとえば、資料タイトルという情報グループには、タイトルという情報カテゴリが含まれているが、タイトルとして記述されるものには、製作時に芸術家によって与えられたものもあれば、のちに収集家が名付けたものもある。また、出土品の場合には特にタイトルがないため、資料タイトルという情報グループは用いられない。このように資料の識別にはタイトルが機能しない場合や、資料の所蔵履歴とともにタイトルが変わる場合もあるため、図書館資料のタイトルのように識別性は高くない。また作者不明の場合やのちに別の作者によるものであることが判明する場合などもあり、作者名もタイトルと同様に識別性が低い項目である。

3. 3. 2 ICOM/CIDOC/CRM

博物館資料に関する情報の記述は完了することではなく、所蔵館が変わった場合、研究成果によって新たな解釈がなされた場合、資料が破損した場合など、時間の経過に伴って新たな情報の記述が要求され続ける。この点を特に考慮して開発されたのが、*ICOM/CIDOC/CRM* (のち*CRM*と略す) である。

*CRM*提案の目的は、博物館におけるドキュメンテーション活動を円滑に行うためのデータベース構築である [14] [15]。*CRM*は、研究者、学芸員、利用者らが博物館活動全般（博物館資料の収集、管理、保存、調査・分析、広報など）において必要とする情報を記述し、必要に応じて取り出すことができるようなデータベース構築のための概念モデルである。モデル化手法としては、*IFLA/FRBR* [4] で用いられたモデルに類似したオブジェクト指向モデルを採用している。*CRM*は84のentityとその属性を示す139のpropertyから構成されている。なお、先

に述べた *ICOM/CIDOC Guideline* に含まれていた22の情報グループに対応するデータ構造も示すことができるようになっていく。

CRMの特徴は、Temporal entityとよばれる上位のentityの存在である。このentityは、抽象的なentityで、複数の時点で資料に関する情報が変化したものをすべてまとめる役割を果たしている。博物館活動を時間的な流れで把握しようとする試みである。その流れの中で、博物館資料に関する情報の変化も処理できるように工夫されている。

3. 4 絵画を主な対象とした記述項目

CDWAのカテゴリの中には、パノフスキーによる美術作品の解釈方法を基礎として開発された項目がある。それは、パノフスキーが提唱した3層モデル(自然的主題、伝習的主题、内的意味) [16] をそのままSubject-Matterというカテゴリのサブカテゴリであるdescription, identification, interpretationとして採用したものである [17]。美術史研究の一つである画像学の観点を採用することによって作品の主題をより詳細に分析できることから、作品検索に耐えるデータ構造を提案している。これまでに見てきた記述基準には見られなかった、利用者志向の記述基準である。

4 MARC21との照合

図書館資料に関する記述基準であるMARC21 [13] を比較の対象として用いて、博物館資料の記述項目の特徴を見ることにする。表1と表2は、MARC21の記述要素を基本にして、その要素にもっとも近いと考えられた記述項目を5つの記述基準から抽出し照合した結果を示したものである。表1は、博物館資料そのものに関する記述項目を比較した結果であり、表2は博物館資料の画像(たとえばWeb上で公開されている絵画のデジタル画像など)に関する記述項目の照合結果である。

対象とした記述基準の中で最も記述項目が少

ないObject IDにおいて重要な項目であったDistinguishing Featuresに該当するものはMARC21の主要な要素には設定されておらず、実際に記述するとすれば「注記」といった周辺的な要素で補うことになる。図書館資料の物理的特徴に関する記述は、排架のためのデータとして必要とされるが、一方博物館資料の物理的な特徴は、破損部分がどこにあるのかを詳細に記述することでその資料がどの博物館に所蔵されていたものなのかを多くの類似品から判断するために必要なものである。

VRA Core Categoriesでは、美術品に関する記述項目(表1の部分)とその画像資料に関する記述項目(表2の部分)がrelationという項目によってリンクされるような構造であるが、MARC21では美術作品もそのスライドや電子ファイルも同じレベルにおいてそれぞれの項目に記述され、リンクされる構造ではない。博物館資料識別においては、実体としての資料に関する記述に加えて、その識別を助ける画像資料(派生物)に関する情報が必要とされている。

次に、*ICOM/CIDOC Guideline*とそれを内包する*CIDOC/CRM*についてであるが、他の記述基準に比べて、MARC21の項目に該当するものは少なかった。これは*CIDOC/CRM*が博物館活動全般に関する情報の記述を可能にするために、多くのentityとその属性propertyを設定しているが、資料に関する項目はその一部でしかないためである。博物館所蔵の絵画の例で言えば、絵画の製作者、製作年、製作場所、その絵画を商った美術商、絵画を購入した収集家、収集家からの寄贈年、その時点での保存状態、博物館での保管場所、展示期間、展示時に付与されたタイトルなど、膨大な情報が資料に記述される可能性がある。この点を図書館の所蔵図書と比べればわかるように、わずかな記述項目で処理が可能である。

CRMは、博物館資料の識別に必要な情報を、時間の経過とともに追加できるような構造を設定し、各時点での資料識別を可能にしている。

表 1：博物館資料を対象とした記述項目とMARC21との照合

	8 ARCEI luneN-erh yyl eurf-erh	Object ID -Fme oMObject	VRA Core Categories -Fme	ODWA:Categories3 Object f wor yFme	CIDOC L4me Object l uMh atiou yObject 2 ah e	CIDOC/CRM E19 6 xFisai0Object
LTSece	6 xFisai08 enj4h 6 xFisai08 enj4h v h ateria0amden to s4h Mce	8 ateria0 1 - exxuiq4es	8 ateria0	8 ateria0 aun - exxuiq4es y8 ateria0y	8 ateria0aun - exxuiq4e l uMh atiou y8 ateria0	E07 8 ateria0
LTSb	6 xFisai08 enj4h yni h eudraus	8 eas4reh euts	8 eas4h euts	8 eas4h eutsyDih eusou	Descriptiou l uMh atiou y8 eas4reh eut Descriptiou l uMh atiou y8 eas4reh eut	E08 8 eas4h eut Uuit
dNN	2 ote -e0s	l uScritiou 1 8 ar' iugs	-	l uScritiou f8 ar' s	8 ar' aun l uScritiou l uMh atiou y8 ar' f l uScritiou -eN	ELT l uScritiou EL7 8 ar'
dNN	2 ote -e0s	Distigstixug -eat4res	-	Countiou l uMh atiou yCountiou	Countiou l uMh atiou yCountiou	E0p 6 xFisai0
ETN	-it0 aun -it0yReuten -erh	-it0s	-it0	-it0 ar 2 ah esy-eN	Object -it0 l uMh atiou y-it0	ELd -it0
dES	4h	4hject	4hject	4hject f8 ateryyDescriptiou	4hject Descten l uMh atiou y 4hject Descten Descriptiou	ELd -it0
ESc	6 4hjectou/Distigstixug/et0h mnt03mate oM	Date or 6 erion	Date	CreatiouyDate	Object 6 ractiou l uMh atiou y ractiou Date	ELs Date
TNN	8 au Eurf -e0s Amin	3 a er	Creator	CreatiouyCreatoryIneuitif2 ah es	Object 6 ractiou l uMh atiou y ractiou Date	EL9 Actor
dNN	2 ote -e0s	"Write a short note in French"	Description	Descripti e uote 3eh ar' s3	8 ateria0aun - exxuiq4e l uMh atiou y-exxuiq4e	E0d -Fme
dNN	4hject Access -e0s	4hject	4hject	4hject 8 ateryyIneuitiatiou	8 ateria0aun - exxuiq4es y8 processes or -exxuiq4es y2 ah e	E0d -Fme
LTSb	6 xFisai08 enj4h yni h atou reomug teckuiq4e	-	-exxuiq4e	8 ateria0 aun - exxuiq4es y8 processes or -exxuiq4es y2 ah e	Object 6 ractiou l uMh atiou y8 ractiou Date	E0d -Fme
TNN	8 au Eurf -e0s y8 atou terh	-	Ro0	CreatoryCreatoryRo0	Object 6 ractiou l uMh atiou y8 ractiou Date	E0d -Fme
7NN	Amin Eurf -e0s y8 atou terh	-	ID 24 h ber C4rreut	C4rreut LocatiouyRemesitorF2 ah e	Locatiou l uMh atiou yC4rreut Locatiou	E0d -Fme
8TY88N	H0hugs/ Locatiou	-	RemesitorF2 ah e	C4rreut LocatiouyRemesitorF2 ah e	Locatiou l uMh atiou y8 ractiou Date	E0d -Fme
dlc	Locatiou oMOriginalD4h-ates 2 otey4cst0id4h	-	Locatiou C4rreut .ite	C4rreut Locatiouy eoramic Locatiou	l ustitiatiou l uMh atiou y l ustitiatiou 2 ah e	E0d -Fme
dlc	Locatiou oMOriginalD4h-ates 2 otey4cst0id4h	-	Locatiou C4rreut .ite	C4rreut Locatiouy eoramic Locatiou	l ustitiatiou l uMh atiou y l ustitiatiou 2 ah e	E0d -Fme
pdfF	luneN-erh yyl eurf-erh y8 xrou00igca0	-	-it0 f6 erion	t4r f6 erion rohf 8 o h eutsyluneN-erh s	8 ateria0aun - exxuiq4e l uMh atiou y8 ractiou Date	E0d -Fme
pdfN	luneN-erh yyl eurf-erh y8 xrou04hni isiou	-	C4h4re	Creator IneuitifY 2 at4refC4h4refRace	8 ateria0aun - exxuiq4e l uMh atiou y8 ractiou Date	E0d -Fme
dhEc	Conf aun Versiou IneuitMeatiou 2 oteyVersiou	-	RehitiouBo ih age3	Creator IneuitifY 2 at4refC4h4refRace	8 ateria0aun - exxuiq4e l uMh atiou y8 ractiou Date	E0d -Fme
ETS	Entiou . tateh eut	-	-	tate	8 ateria0aun - exxuiq4e l uMh atiou y8 ractiou Date	E0d -Fme
767	2 oueracMe RehitiouximEurf	-	-	Entiou	8 ateria0aun - exxuiq4e l uMh atiou y8 ractiou Date	E0d -Fme
		-	-	Relaten Wor y IneuitMeatiou	8 ateria0aun - exxuiq4e l uMh atiou y8 ractiou Date	E0d -Fme
		-	-		Acqdisitiou l uMh atiou	E0d -Fme
		-	-		Deaccessiou aun Desmeso l uMh atiou	E0d -Fme

表 2：博物館資料の画像を対象とした記述項目とMARC21との照合

	MARC21 Fields	Object ID	VRA Core Categories	CDWA	CIDOC Information Category	CIDOC/CRM
533a	Reproduction Note--type of reproduction	-	Type	Related Visual Documentation--Image Type	Image Information G--Image Type	E38 Image
533e	Reproduction Note--physical description of reproduction	-	Format	Related Visual Documentation--Image Measurement	-	-
533e	Reproduction Note--physical description of reproduction	-	Measurement	Related Visual Documentation--Image Measurement	-	-
533d	Reproduction Note--date of reproduction	-	Date	Related Visual Documentation--Image Ownership--Owner's Name	-	-
533c	Reproduction Note--agency responsible of reproduction	-	Location Current Reposition	Owner's Name	-	-
533h	Reproduction Note--Note about reproduction	-	ID Number	Owner's Number	Image Information G--Image Reference Number	-
245p	Title Statement--name of part	-	Title	Related Visual Documentation--View	-	-
305	Formatted Contents Note	-	-	Related Visual Documentation--View--Indexing Term	-	-
320	Summary, Etc.	-	-	Related Visual Documentation--View--Indexing Term	-	-
6xx	Subject Access Fields	-	Subject	Related Visual Documentation--Image--Source--Name	-	-
084	Other Classification Number	-	-	Related Visual Documentation--Image--Source--Name	-	-
541	Immediate Source of Acquisition Note	-	Source	Related Visual Documentation--Image--Source	-	-

このことは、図書館資料が入手された時点で記述された情報が半永久的に資料識別に利用されるのに対して、博物館資料に関する情報は資料に関わる出来事 (event) ごとに何度も識別が繰り返される度に作成され続けることを示している。

最後に利用者の立場から開発された CDWA と MARC21 との照合であるが、他の記述基準に比べて、対応するフィールドが多くあった。CDWA の項目には copy や version を記述する項目や edition の項目があり、それぞれ MARC21 のタグ 562, タグ 250 が該当する。これは、絵画が博物館資料のなかでもっとも図書館資料に近い特徴をもつためと考えられる。対応するタグがなかったのは、Subject-Matter の下位の一つである作品の意味内容を示す項目であった。

以上の結果をもとに、博物館資料を対象とした記述基準と MARC21 との違いとして、次の 3 点を挙げることができる。

- (1) *Object ID* をはじめとする各基準の物理的特徴に関する記述項目は、MARC21 では周辺的な要素である「注記」として記述されることになる
- (2) *VRA Core Categories* で見られたような、実体とその画像に関する記述項目の関連付けはない
- (3) *ICOM/CIDOC/CRM* で示されたように博物館資料は時間の経過とともに記述内容(来歴)が追加され得るが、MARC21 では記述内容は記述作成時点で完結される

なお、CDWA で見られたような絵画の主題や state, edition といった記述項目に該当する項目は、MARC21 にも含まれていることがわかった。

5 博物館資料識別の特徴

5 つの記述基準を図書館資料のための MARC21 と照合しながら、博物館資料の識別方法にお

ける特徴について分析した。その結果として、以下のような特徴が明らかになった。

- (1) 資料ごとに物理的な特徴を詳細に記述することが識別に重要な要素である。

図書館資料を対象とした記述項目は、たとえば図書という資料の内容(中身)についてできるだけ詳しく説明するために設定されている。これに対して、博物館資料を対象とした記述項目は、今回対象とした 5 つの記述基準すべてにおいて資料の物理的な特徴を詳しく記述するためのもが多く含まれていた。このような違いの背景には、図書館が、資料を求める利用者を基本にその関心に答え得る記述項目の提供に重点を置いているのに対して、博物館は、資料の提供よりも保管に重点を置いているという、各々の機関としての機能の違いがあると言えよう。またそのような機能の違いは両者が扱う資料の特性の違いを反映している。すなわち、図書館が複数部同時に刊行される「複製資料」を所蔵しているからこそ、資料の保存よりも提供が可能であるのに対して、博物館は「唯一無二の資料」であるからこそ保存が重視されるのである。

- (2) 識別の単位は、物理的な実体そのものである。

図書館資料の識別はその内容、すなわち作品という抽象的な概念が単位となっているのに対して、博物館資料は、たとえ同じ場所で同じ時に製作されたものであっても、その一つ一つを区別するために記述項目を設定していた。図書館は資料の内容、すなわち抽象的な存在としての作品を情報源として提供するために、内容に関する情報を記述し、博物館は実体そのものが情報源であり、それを保存し、そのために実体そのものに関する情報を詳細に記述してきたのである。

ただし、実体としてのまとまりは変化する可能性がある。CIDOC/CRMで見られたような、一時点での資料識別ではなく多時点での資料識別が行なわれる過程において、識別単位が変化する場合もあると考えられるため、博物館資料の識別単位は図書館資料のように一意に決めることはできないと言えよう。

また、図書館資料識別のように、抽象的なwork概念による資料識別は行なわれていなかったが、CDWAとの比較で述べたように、絵画を対象とした資料識別においてもwork概念に類似した機能が見られた。

以上のように、博物館資料を対象とした記述基準の分析を通して、博物館における資料識別の特徴とその背景が明らかとなった。今後は、博物館資料であり、かつ図書館資料でもある図録を中心に、その他の類縁機関で重複して所蔵されている資料の記述例を収集して分析する予定である。

本研究は、愛知淑徳大学の平成15年度研究助成によるものである。

<引用文献>

- [1] International Council of Museum. International Committee for Documentation. *CIDOC Conceptual Reference Model. Version 3.2.1.* [cited 2003-11-07] Available from <http://cidoc.ics.forth.gr/docs/cidoc_crm_version_3.2.1.rtf>
- [2] Kathleen Burnett, et. Al. A Comparison of the two traditions of metadata development. *Journal of American Society for Information Science.* Vol.53, No.13, 1999, p.1209-1217.
- [3] ISO Standard 15836-2003 *Information and Documentation-Dublin Core Metadata Element Set.* Available from <<http://www.niso.org/international/SC4/n515.pdf>>
- Dublin Coreについては次の文献が詳しい。
- 杉本重雄, メタデータについて : Dublin Coreを中心として, 情報の科学と技術, Vol.49, No.1, 1999, p.3-10.
- [4] *Functional Requirements for Bibliographic Records: final report.* IFLA Study Group on the Functional Requirements for Bibliographic Records. Munchen, K.G.Saur, 1998, 136p.
- [5] ISO15707:2001 *Information and Documentation-International Musical Work Code (ISWC)*
- [6] ISO/DIS 21047. *Information and Documentation-International Textual Work Code (ISTC)*
- [7] 菅野育子. IFLA / FRBR と ISWC, ISTCのwork概念の比較. *Library and Information Science.* No.44, 2002, p. 27-41.
- [8] Getty Information Institute. *Object ID.* [cited2003-11-07] Available from <<http://www.object-id.com/>>
- [9] Visual Resources Association. Data Standards Committee. *VRA Core Categories.* Version 3.0. [cited 2003-11-07] Available from <<http://www.vraweb.org/vracore3.htm#core>>
- VRA Core Categories.* Version 2.0 は以下の資料に収録されている。
- McRae, L. ; White, L. S. eds. *ArtMARC sourcebook: cataloging art, architecture, and their visual images.* Chicago, ALA, 1998. 287p.

- [10] International Council of Museum. International Committee for Documentation. *CIDOC Guideline for Museum Object Information: the information groups and categories*. [cited 2003-11-07] Available from <<http://willpowerinfo.myby.co.uk/cidoc/guide/guidecat.htm>>
- [11] Getty Research Institute. *Arts & Architecture Thesaurus On Line*. [cited 2003-11-07] Available from <http://www.getty.edu/research/conducting_research/vocabularies/aat/>
- [12] Getty Research Institute. *Categories for the Description of Works of Arts*. [cited 2003-11-07] Available from <http://www.getty.edu/research/institute/standards/cdwa/8_printing_options/cdwa.pdf>
- [13] Library of Congress. *MARC21*. [cited 2003-08-07] Available from <<http://www.loc.gov/marc/bibliographic/nlr/>>
- [14] Doerr, Martin. ; Crofts, Nicholas “Electronic Esperanto: The Role of the Object Oriented CIDOC Reference Model”, *Cultural Heritage Informatics: selected papers from ICHIM99, Archives & Museum Informatics*, edited by David Bearman and Jennifer Trant, Pittsburg, Sept. 1999, p. 157-174. (ISBN 1-885626-17-8)
- [15] 菅野育子. 博物館情報の標準化：概念参照モデルの提案. *カレントアウェアネス*. No.267, 2001, p.3.
- [16] Panofsky, E. *イコノロジー研究*. 上巻. 浅野徹ほか訳. 東京, 筑摩書房, 2002, 277p.
- [17] Harpring, P. *The Language of images: Enhancing access to images* by applying metadata schemas and structured vocabularies. Baca, M. ed. *Introduction to art images access: issues, tools, standards, strategies*. Los Angeles, Getty Research Institute, 2002, p.20-39.